

〈入試科目の見方〉

公募推薦入試のみ受験の場合は、各入試科目の「公募推薦」の欄についている○が受験科目になります。また、公募推薦入試と給費生入試を同時出願する場合は「給費生」の欄の○が受験科目になります。

デジタルミュージックコース

試験科目	内容	注記	A O	給 費 生	公 募 推 薦	一 般 期	一 般 後 期
1	主科実技課題 以下の(1)~(3)のいずれか1つを選択する (1)与えられたコードネームにもとづいて旋律を作曲する(16小節程度、60分。試験時における楽器の使用は認めない)。 (2)作文 デジタルテクノロジーと音楽のかかわりについて、または任意の音楽作品について自由に述べる(1000字程度、60分)。 (3)作品提出 自作品の楽譜またはAudio CDを出願時に1曲提出(編曲作品は除く)。		○	○	○	○	○
2	楽典 筆記試験(60分)		○	○	○	○	○
3	ソルフェージュ課題 以下の(a)~(c)のいずれか1つを選択する (a)旋律聴音2題 (b)F.Wüllner: Chorübungen der Münchener Musikschule(コールユープンゲン第1巻)、No.33~59(原書番号)の中から1曲を当日指定 (c)新曲視唱	※聴音および新曲視唱の実施方法と例題は●ページを参照。唱法は固定ド、移動ドいずれでもよい。	○	○	○	○	○
4	副科ピアノ 自由曲1曲(電子オルガンでも受験可)	※繰り返しなし。暗譜でなくてもよい。 ※電子オルガンの使用機種は、以下の中から出願の際に選択する。 ・YAMAHA ELS-01C ・YAMAHA EL-900m ・KAWAI DT9 ・KAWAI DT7 ・Roland AT-900C ・Roland AT-80S データメディアは音色およびシーケンス用データとしてのみ使用可。自動演奏は不可。	○	○	○	○	○
5	主科面接	※主科実技に対する試問を含む。	○	○	○	○	○
6	AO面接	※AO面接は主科面接の中で行う。	○				
7	給費生作文 指定する作曲家のうち一人を選んでその伝記を読み、試験当日に課題作文を書く。(60分) 詳細は●ページに記載。	※伝記は単行本に限り、辞書・辞典類の項目は認めない。当日参照不可。		○			
8	給費生面接			○			
9	一般科目 A. 本学で行う以下の一般科目(a)~(c)の中から1科目を選択して受験(45分) (a)英語(I・II) (b)国語(国語総合、国語表現I、ただし古文・漢文を除く) (c)数学I					○	
	B. 以下の(1)または(2)のいずれかを選択する (1)本学で行う以下の一般科目(a)~(c)の中から1科目を選択して受験(45分) (a)英語(I・II) (b)国語(国語総合、国語表現I、ただし古文・漢文を除く) (c)数学I (2)大学入試センター試験の成績を利用する 以下の(a)~(f)の中から1教科1科目を選択 (a)国語 (b)地理歴史 (c)公民 (d)数学 (e)理科 (f)外国語	※大学入試センター試験の成績を利用する場合、「国語」「地歴」「公民」「数学」「理科」「外国語」について2教科・2科目以上受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用。判定の際、各科目毎100点満点に換算。合否判定に使用できる科目の詳細については38ページを参照。					○

- ピアノコース
- 電子オルガンコース
- 弦管打楽器コース
- 吹奏楽コース
- 声楽コース
- 合唱指導者コース
- 音楽芸術コース
- デジタルミュージックコース
- ポピュラー音楽コース
- バレーコース